

恒例の社会調査実習「最終報告会」

毎年、年度初めの4月に社会調査実習「最終報告会」が行われる。今年度は退職後の4月11日であった。私が開会挨拶をさせてもらうことになり、久しぶりに張り切って教壇に立った。「最終講義」の思い出が残る201教室である。

写真は同僚が撮ってくれた写真である。このレポートを書くために写真をじっくり眺めると、石川さん



が車椅子でメモをとっている。「最終講義」とほぼ同じ場所であった。あらためて石川さんの真摯に教育に情熱を傾ける姿勢に感動した。

「緊張の春」などと言ったが、久しぶりなので事前に「原稿」を準備していた。データを探したが見つからないので、コピーから打ち直した。

3月末で大学を卒業しましたが、「1単位」だけ残っていました。それが今日の調査実習「最終報告会」です。

退職して自由な身になりましたが、ひと言、挨拶させてもらいます。昨年4月12日に実習ガイダンス、19日に6つの調査チームが編成されました。各班ごとに調査課題や作業仮説の検討がなされ、とりわけ夏休みに調査が集中的に実施されました。

そして後期に入り、10月4日に「学内中間報告会・ゲネプロ」が行われ、厳しい質問やコメントも寄せられたと思います。10月26日には名大で「社会調査実習インターカレッジ報告会」、インカレが開催されました。「もうインカレ」といった声もあがるなかで、各班の皆さんが緊張しながら報告していたのを思い出します。

インカレでの「注文」などをうけて、その後も追加調査などを続け、報告書の執筆に向かったと思います。3月末にはすべての班の報告書が届き、今日の「最終報告会」となりました。1年間にわたる調査実習の成果を、これから調査を始める後輩たちに披露してもらいたいです。

後輩の皆さんは、先輩の報告をしっかりと聞いて、これからの調査の参考にしてください。そして、先輩たちの調査を上回る成果をあげてほしいです。皆さんの報告を楽しみにしています。ありがとうございました。

(2014年8月18日)